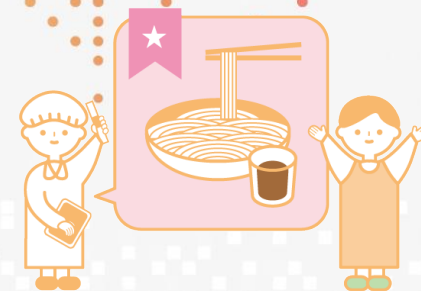
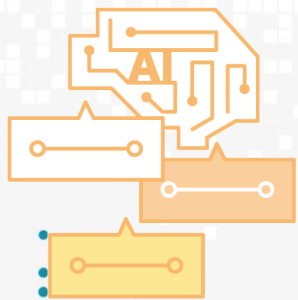


桜井市 × デジタルビジョン1.0 (2026-2030)



Chapter 1

はじめに P02

- 1-1. 市長メッセージ P03
- 1-2. 目指す姿 P04

Chapter 2

DX推進の考え方 P05

- 2-1. 現状と課題 P06
- 2-2. 基本理念 P07
- 2-3. 基本方針 P08

Chapter 3

基本計画 P09

- 3-1. ビジョンマップ P10
- 3-2. ロードマップ P11

Chapter 4

リーディングプロジェクト P13

- 4-1. まどぐち改革 P14
- 4-2. 暮らしの安心・安全 P15
- 4-3. 観光・文化の魅力発信 P16
- 4-4. 行財政の効率化 P17
- 4-5. 改革を支える基盤づくり P18

Chapter 5

DXの推進体制 P19

- 5-1. 体制図 P20

付録 P21

- 付録1. このビジョンの位置づけ P22
- 付録2. このビジョンの計画期間 P23
- 付録3. 用語集 P24

桜井市未来共創フェローのコメント P26
～Special Thanks



Chapter 1 はじめに

「桜井市×でじたるビジョン」に込めた思いや桜井市の目指す姿を示し、変化する社会に対応するデジタルの意義、そして市民の日常と市のしくみに革新をもたらす未来の「ランドデザイン」を描きだします。

はじまりの地「桜井」、 “でじたる” で未来を拓く

社会の変化が加速し、くらしのカタチや価値観が多様になっています。こうした時代の変化に応じていくためには、行政の仕組みそのものを見直していくことが欠かせません。

デジタル技術を活かしたDX(デジタル・トランスフォーメーション)は、市民に質の高いサービスを届け続けるだけでなく、新たな事業機会を創出し、地域経済を活性化させることで、未来に向けて持続可能な地域社会を築いていくための大切な取組です。

この取組を具現化すべく、「**桜井市×でじたるビジョン**」を策定しました。

タイトルにある「×(かける)」は、桜井の魅力とデジタル技術を結び合わせ、市民のみなさんが便利さを実感できる「やさしいまちづくり」を進める姿勢を示しています。

そして“でじたる”とあえて平仮名にしたのは、デジタルを専門的なものではなく、市民のくらしに寄り添う、もっと身近で「やさしいデジタル」として感じていただきたいからです。

このビジョンは、市民のくらし、行政のカタチ、そして地域社会を、“でじたる”のチカラでより良く変えていくための新しい指針です。



桜井市長 松井 正剛

目指す姿は、
桜井のくらしの真ん中に、“でじたる”を。
人とまちが、ともに育つ。

Vision
1

市民中心のサービス革命

「あなたファースト」で、
手間を少なく、迷いをなくす

手続きを「自宅でも・窓口でも」簡単に。
市民ニーズに寄り添う
「プッシュ型サービス」でより便利に。

Vision
2

職員も輝く行政へ

「創造」のチカラで、
働きがいと生産性を両立

「学び直し」を進め、DXで行政をスマートに。
市民との対話や政策づくりに
集中できる質の高い行政に。

Vision
3

行政×サービスデザイン で未来創造

「利用者体験」から
価値を生み出す

行政と市民、両方の目線で
サービスをデザインし、
「使いやすい」「安心できる」をカタチに。

Chapter 2 DX推進の考え方

このビジョンは、現状を正しく見つめ、「やさしいデジタル」を核に、挑戦と共創で進む道筋を示す羅針盤です。理念と方針のもと、描いたビジョンを戦略へ磨き上げ、新しい桜井のカタチを創っていきます。

(1)現状

現代社会において、デジタル技術は社会構造や人々の生活を一変させる力を持っています。桜井市の行政サービス提供においては、依然として対面や書面を前提とした業務プロセスが多く、「いつでも、どこでも、簡単・便利」なサービスに変わることが求められています。また、各部門を横断して課題解決やデータにもとづいた政策立案を目指すことが欠かせません。

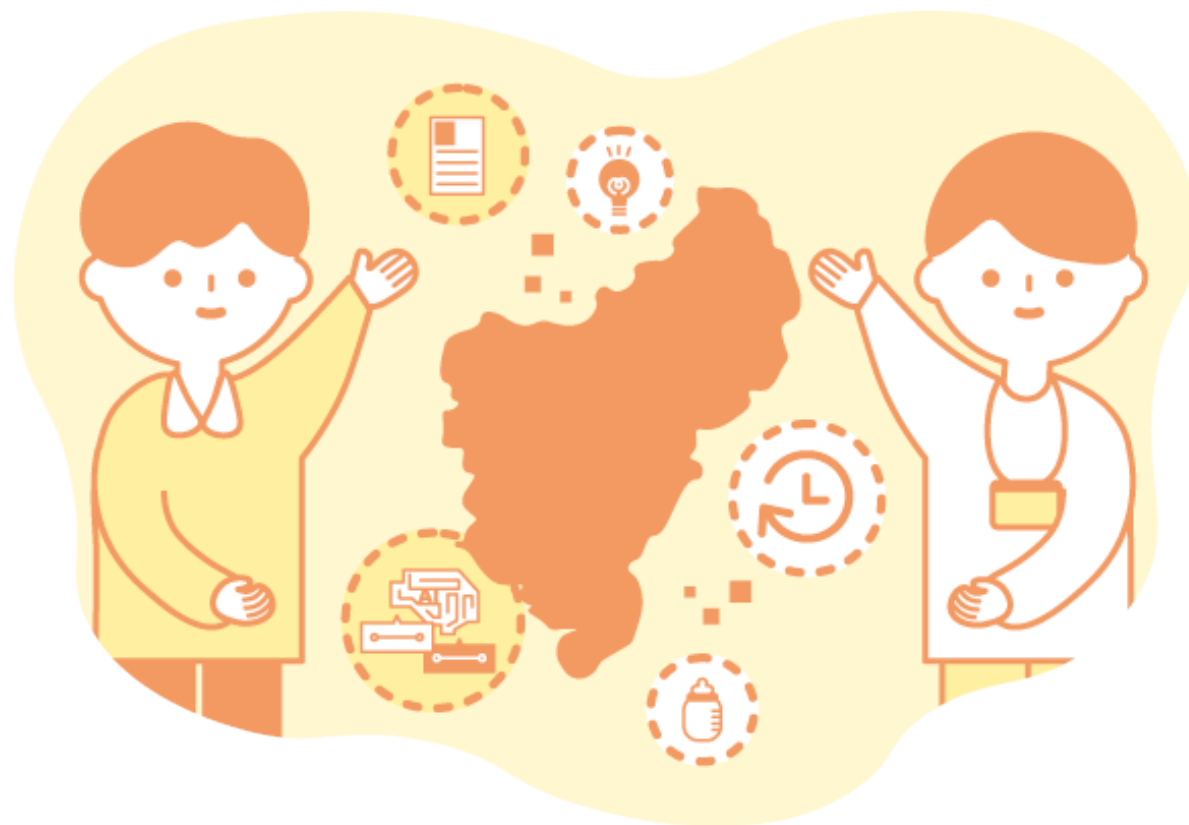
(2)課題

桜井市として取り組むべき主要な課題を、以下の3点に分類します。

課題分類	主要な課題
業務プロセス	非効率な業務プロセス(アナログな慣行、反復的な事務処理、データの重複管理など)が残っており、職員の業務負担が大きい状況にあります。業務全体を抜本的に見直し、効率的な行政運営を実現することが求められています。
人材・組織	DXを主導できる人材の育成と確保が課題であり、部署間の連携を強化し、デジタル技術を横断的に活用できる組織体制への転換が求められています。
利用者視点	サービス設計において、利用者中心の視点を重視し、すべての市民と職員が安心して利用できるデジタル環境の整備が求められています。

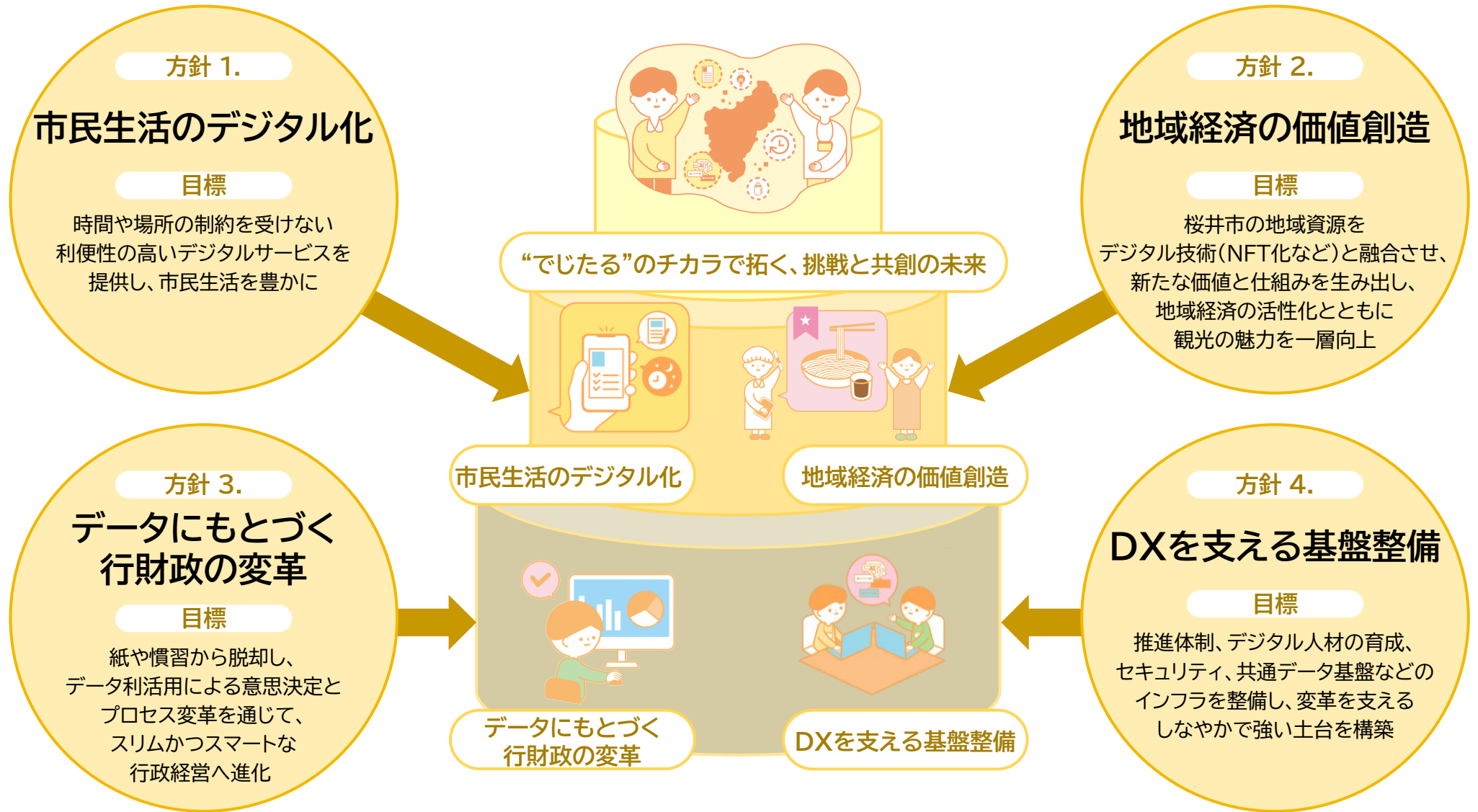
“でじたる”のチカラで拓く、挑戦と共創の未来

“でじたる”のチカラを最大限に引き出し、市民と行政の関係に新たな価値を生み出すことを理念とします。変化に恐れず挑戦し、誰もが「快適だ」と感じる桜井の暮らしのカタチを築いていきます。



基本理念にもとづく4つの基本となる方針

リーディングプロジェクト(重点施策)と連動し、デジタル庁が進める『アナログ規制の見直し』にも積極的に取り組み、市民サービスの向上、業務効率化やコスト削減を実現します。



Chapter 3 基本計画

手順のオンライン化から地域経済の活性化まで、「あなたファースト」のサービスと働き方改革を進め、市民の「もっと便利に」と行政の「もっと効率よく」が実感できる変革に向けた一歩を示します。

市民サービス

くらしをもっと便利で豊かに

観光・文化の魅力発信

観光資源や文化財をデジタル技術で発信・体験



NFT で価値を創造



体験型プロモーションの充実



観光・文化資産

くらしの安心・安全

必要な情報が確実に届き、生活の質が向上



プッシュ型情報提供



最適な学びの環境を提供



災害時の情報伝達を強化

まどぐち改革

手続きのオンライン化で手間と時間を短縮



行かない窓口



書かない窓口



待たない窓口

行財政の効率化

行政運営の質を向上し、付加価値の高い業務に注力



BPR の推進



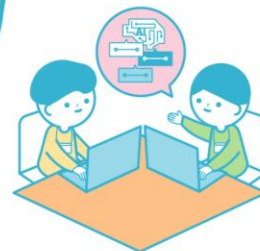
EBPM の強化



AI の利活用

改革を支える基盤づくり

職員のスキル向上により高いDX推進力を発揮



DX 人材の確保・育成



開かれた DX 推進体制



情報セキュリティの高度化

行政内部

行政の新しい仕組み・組織づくり

市民サービスの向上

くらしをもっと便利で豊かに

Phase 1

窓口の手続きをシンプルに

- ・窓口業務のBPRを進め、「書かない窓口・待たない窓口」を実現
- ・高齢者へのデジタルデバインド対策を継続実施
- ・マイナンバーカードを認証できるオンライン手続きの開始

Phase 2

- ・オンライン化の対象手続きの拡大、「行かない窓口」を進める
- ・チャットボットなどのAIを取り入れた市民サービスを展開

Phase 3

- ・主要なライフイベントの手続きがワンストップで完結
- ・オンライン手続きがあたり前に

奈良スーパーアプリでこども・子育てDX

- ・オンラインで妊娠届の来庁予約を可能に
- ・こどもの成長に合わせた情報をアプリから先回りで届ける

- ・電子版母子健康手帳の開始
- ・子育て世帯のニーズに合わせた、個別レコメンド機能による情報提供

- ・医療情報と連携したサービスを提供
- ・AIなどのデジタル技術を活用した子育て相談業務の高度化と効率化

基盤強化
1～2年目

展開と成果
3～5年目

定着と飛躍
5年目～

行政経営の変革

行政の新しい仕組み・組織づくり

Phase 1

職員全体のデジタルリテラシーを底上げ

- ・職員のDXアセスメントの実施、リスキリングを進める
- ・情報セキュリティ、データ活用に関する知識を浸透させる

先端技術の導入・活用

- ・生成AIやRPAを活用し業務を効率化
- ・庁内業務における先端技術の適用可能性調査とユースケースを整理する

Phase 2

- ・データ分析、業務自動化など専門性の高いデジタルスキルトレーニングを実施
- ・DXを自ら主導できる人材を育成

- ・生成AI、RPAの全庁展開と活用範囲の拡大
- ・各事業のアナログ手法を見直しDXを進める

Phase 3

- ・テレワークの本格実施
- ・AI、データ分析を基盤とした政策立案、業務改善の定着

- ・データ駆動型ガバナンスを確立し、政策意思決定の質を向上
- ・新たな次世代デジタル技術を検証、戦略的に導入

複雑な課題の解決や創造性の高い業務など、人にしかできない仕事に集中

基盤強化
1～2年目

展開と成果
3～5年目

定着と飛躍
5年目～

Chapter 4 リーディングプロジェクト

『はじまりの地「桜井」、 “でじたる” で未来を拓く』というメッセージは、このビジョンが示す未来を表しています。

市民の暮らしを豊かにし、未来にわたって桜井市が発展し続けるために、5つのリーディングプロジェクト(重点施策)を進めます。

書かず、待たず、行かずに。もっと“らく”で“やさしい”まどぐちへ。

■ 解決すべき課題

1. 申請書記入の負担や、手続きの「待ち時間」が市民の利便性を損ねています。
2. 多くの行政手続きが対面や書面を前提としており、市民が市役所に来庁しなければなりません。
3. 窓口対応が、限りある人的資源(職員)の業務効率を低下させています。

■ 取組の概要

- ◎ 窓口やオンラインなど、市民が最初に行政と関わる接点＝“フロントヤード”を抜本的に見直します。
- ◎ 「わかりやすく」「待たずに」「迷わず」完結できる行政手続きを実現し、すべての市民が快適に利用できる行政体験へと進化させます。
- ◎ オンラインと対面の双方で利便性を高め、誰もが安心して利用できる“くらしのデジタル化”を推進します。

■ 対象事業

- ◎ 窓口手続きの簡素化(本人確認方式の統一、帳票・記入項目の削減)
- ◎ 窓口体験の最適化(オンライン来庁予約、呼出し方式の最適化<整理券システム、混雑状況の可視化>)
- ◎ オンライン手続きの拡充(電子申請手続きの拡大、チャットボット、マイナポータル連携)

■ 期待される効果

- ◎ 「楽になった」「早くなった」と実感できる、サービス利用体験が変わります。
- ◎ 来庁せずに完結できる手続きが増え、市民の時間的負担が軽減されます。
- ◎ 窓口対応の最適化により、職員は相談・提案型のサービスに集中できます。

書かない窓口

窓口で書類の記入が省け
手続きがスムーズに



待たない窓口

事前予約や混雑が確認でき
滞在時間を大幅に短縮



行かない窓口

自宅や外出先、夜間や休日でも
オンラインで手続き完了



つながる安心、ひろがる学び。すべての暮らしに、やさしい“でじたる”を。

■ 解決すべき課題

1. 既存の防災システムでは、災害時の情報収集・共有や多様な住民への情報発信が難しく、避難の遅れや安全確保に支障が出る恐れがある。
2. 子育て世帯が必要とする情報が分散しているため、支援制度の存在を知らないまま手続きが遅れるケースが生じている。
3. 従来の対面型学習環境への参加や学習意欲の維持に課題をかかえる児童生徒がいる。教員は膨大な事務作業に時間を取られ、児童生徒に向き合う本来業務に集中しにくい。

■ 取組の概要

- ◎ 市民の暮らしに密着した分野からデジタル化を進め、「必要な情報が届く」「誰もが学びに参加できる」「安心して暮らせる」環境を整えます。
- ◎ 校務プロセスのデジタル化と、関連データの統合・可視化を進めます。
- ◎ 情報発信や教育、防災など、日常生活のあらゆる場面でデジタル技術を活用し、一人ひとりに寄り添う“つながるまち”を実現します。

■ 対象事業

- ◎ 安心・安全のデジタル化（避難情報や警報の即時配信、災害対策本部の機能強化等）
- ◎ 情報伝達のデジタル化（奈良スーパーアプリや電子母子健康手帳を活用し、こどもの成長段階に応じた情報をプッシュ型配信）
- ◎ 教育・学びのデジタル化（クラウド型の学習、校務支援基盤の活用、デジタル教科書の活用、AIドリル学習による個別最適化された学習機会の創出、校務DXのダッシュボード項目達成の推進）

■ 期待される効果

- ◎ 災害対策本部における情報収集や共有および災害時の情報伝達の強化が、迅速な避難行動による被害軽減につながり、市民の安心感を高めます。
- ◎ 子育て支援情報が届くようになり、手続きや相談がスムーズになります。
- ◎ 教員の児童生徒に向き合う時間が確保されるとともに、児童生徒一人ひとりが自分に合った方法で学びに参加できるようになります。

プッシュ型情報提供

年齢や状況に応じた
手続きや情報を自動配信



こどもの学びの環境

校務DXの取組とAIで
一人ひとりに最適な学びを実現



災害時の情報伝達を強化

災害時の迅速な
避難行動が可能に



まちの物語を“でじたる”で世界へ。感じる、学ぶ、つながる桜井へ。

■ 解決すべき課題

1. 地域の観光資源や文化財が持つ独自の魅力が、既存の広報や体験提供手法では国内外に十分に伝わっておらず、地域を応援する人や訪れる人が増えにくい。
2. 地域のプロモーションが従来のみで、新しい価値を生み出す仕組みが不足している。
3. 観光客(インバウンド含む)や市民が地域で得る体験が、デジタル化による利便性やエンターテインメント性に乏しく、多様化するニーズや期待に応えきれていない。

■ 取組の概要

- ◎ “でじたる”のチカラで観光・文化資産などの魅力を国内外に発信します。ARアプリやNFT(非代替性トークン)などの先進技術を活用し、現地での体験価値を高めるとともに、ふるさと納税やキャラクターを活用したデジタルプロモーションを通じて、地域全体のブランド力と経済活力を向上させます。

■ 対象事業

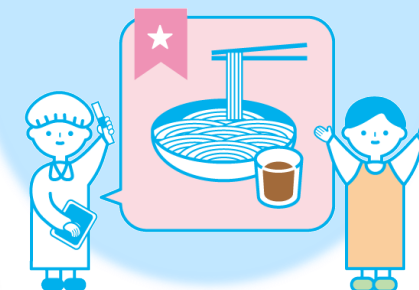
- ◎ ARアプリを活用した文化財・遺跡の魅力発信(桜井周遊アプリ「YAMATO」コンテンツ拡充)
- ◎ 観光アプリを活用した観光資源、特産品などの魅力発信
- ◎ キャラクター纏向犬「こまき」を活用したデジタルプロモーションの推進
- ◎ 先進技術を活用した体験型プロモーションの導入

■ 期待される効果

- ◎ デジタル技術により桜井市の魅力が広く伝わり、国内外での認知度と関心が高まります。
- ◎ 新しい仕組みにより、訪れる人や市民が“楽しみながら学べる”体験を得られ、地域への愛着が深まります。
- ◎ 地域と人がつながる機会が増え、観光客やファンが再訪・継続的に関わる関係が生まれます。

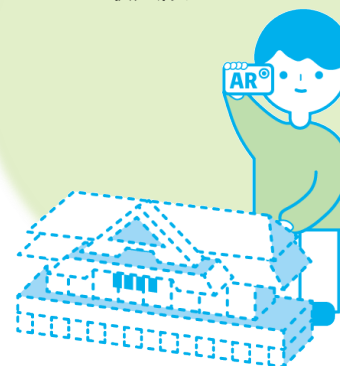
NFTで価値を創造

ふるさと納税・体験型NFTなど
新たな価値提供で
周遊促進・産業支援に



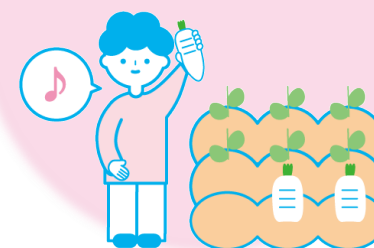
観光・文化資産

観光資産の魅力を
効果的なプロモーションで
最大限にアピール



体験型プロモーション

訪れる人や市民が
“楽しみながら学べる”
先進的な体験を提供



ムダをなくして、創るチカラを。データで進化する桜井の行政。

■ 解決すべき課題

1. ルーティン業務や定型事務に多くの職員の時間と労力が費やされ、非効率が生じている。
2. 限られた人的・財政的資源が既存業務の維持に偏重し、新たな市民サービスの創出や既存サービスの質の向上への投資が不足している。
3. データにもとづいた意思決定や、効率的な情報収集・分析、先進技術の活用が不足しており、行政資源の最適な配分や、戦略的な政策立案の推進を妨げている。

■ 取組の概要

- ◎ デジタル技術を活用して業務の自動化・効率化を進め、定型的・反復的な事務を改善します。
- ◎ データを活用したEBPM(証拠にもとづく政策立案)を推進し、行政資源を効果的に配分できる仕組みを構築していきます。

■ 対象事業

- ◎ BPRの徹底、AIの利活用
- ◎ 職員の業務改善提案制度やアイデアソンの実施
- ◎ 庁内文書・報告書のデータ化・構造化
- ◎ データ活用を通じた根拠にもとづく予算編成・事業評価プロセスの導入

■ 期待される効果

- ◎ 職員が市民対応や政策立案など付加価値の高い業務に集中できるようになり、行政全体の生産性が向上します。
- ◎ 現場からの創意工夫が庁内全体に波及し、継続的な業務改革のサイクルが形成されます。
- ◎ 行政データの構造化・分析を進めることで、政策や事業の効果を客観的に把握し、根拠にもとづいた意思決定が可能になります。

BPRの推進

非効率を見直しムダをなくし
行政をスリム化



AIの利活用

人にしかできない業務に
時間とリソースを集中し
生産性を向上

データ駆動型の
行政(EBPM)の強化

データの活用を推進し
行政運営の質を向上



育成で底上げ、連携で加速、安心で定着。

■ 解決すべき課題

1. 新たなサービスを創出できる専門的な人材の不足、および職員全体のデジタルリテラシー・マインドセットの向上が不十分です。
2. 外部の技術やノウハウを組織内に効果的に取り込み、活用するための連携体制や仕組みが確立されていません。
3. デジタル化の進展に伴い、サイバー攻撃や情報漏洩のリスクが高まっています。

■ 取組の概要

- ◎ 職員全体のスキル向上とリスキリング、DX推進リーダーの育成を進めるとともに、外部の知見を取り入れる“開かれたDX推進体制”を構築します。
- ◎ 強固な情報セキュリティ体制を確立し、DXを安全かつ継続的に推進できる環境を確立します。

■ 対象事業

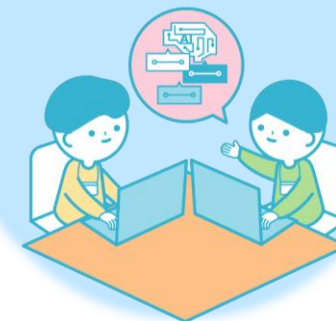
- ◎ 専門人材の育成・確保(データ分析・生成AI利活用等のスキル強化)
- ◎ 他自治体や民間企業・人材との連携を強化(外部の知見や資源の活用)
- ◎ 情報セキュリティポリシーの徹底と、サイバー攻撃対策の強化
- ◎ オープンデータの拡充

■ 期待される効果

- ◎ 職員のスキル向上により組織全体のDX推進力が高まり、外部との協働やオープンデータの拡充を通じて新たなサービスや価値を創出できる体制が確立します。
- ◎ 市民が安心して利用できる信頼性の高いデジタル行政が実現します。

DX人材の確保・育成

質の高い行政サービスを
持続的に提供



開かれたDX推進体制

外部の知見やノウハウを取り入れ
組織の変革を推進



情報セキュリティの高度化

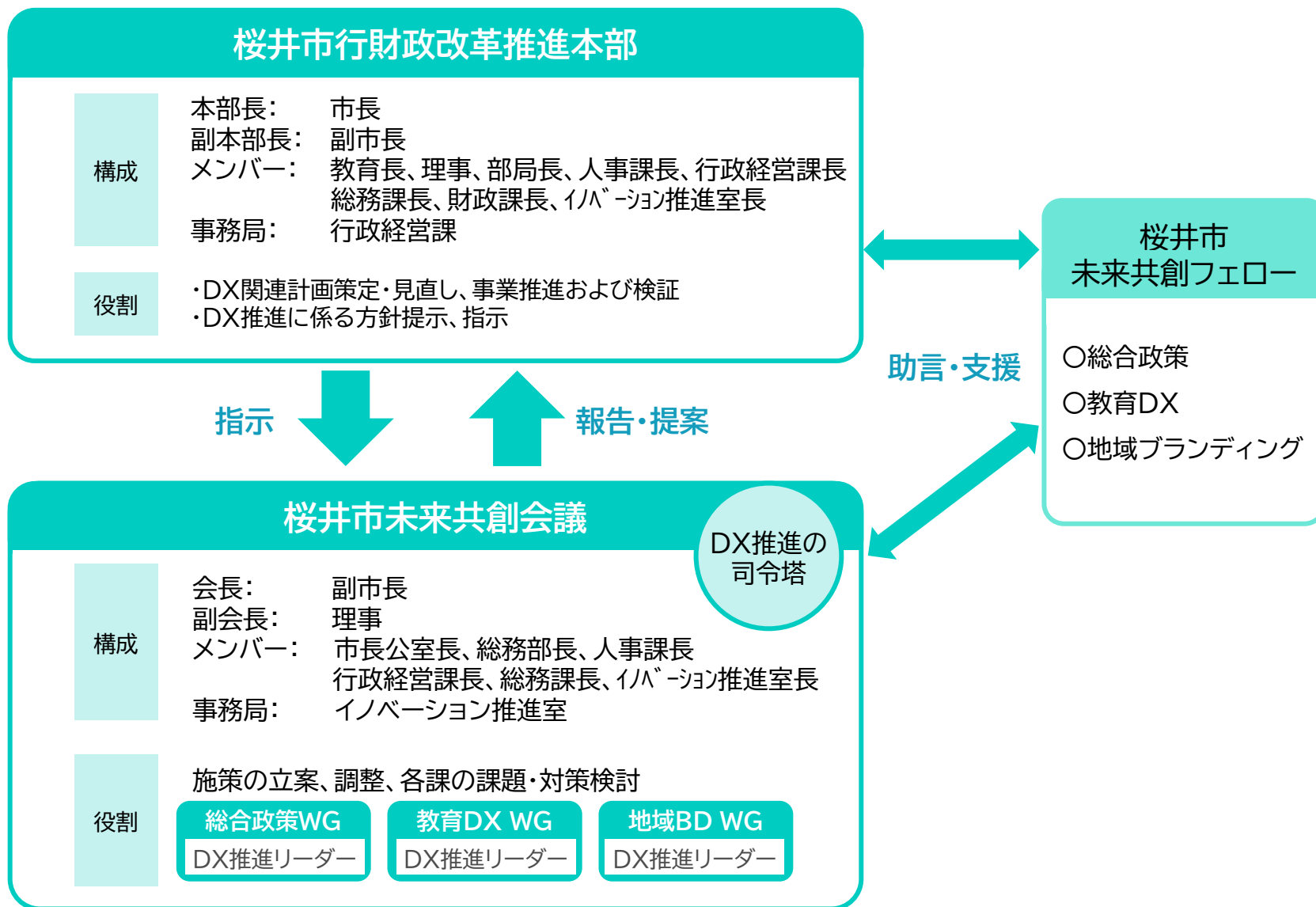
サイバー攻撃など
高まるリスクから情報を保護



Chapter 5 DXの推進体制

DXを効果的に進めるため、庁内の部署どうしが連携して動く仕組みを土台とし、専門知識をもつ外部の力を取り入れ、掲げたビジョンと重点施策の実行力を高めます。

市長をトップとする「桜井市行財政改革推進本部」からの指示を受け、「桜井市未来共創会議」が施策を具体化し本部に報告・提案。この過程を「桜井市未来共創フェロー」が助言・支援する。イノベーション推進室ほかDX担当課が実務を担う。



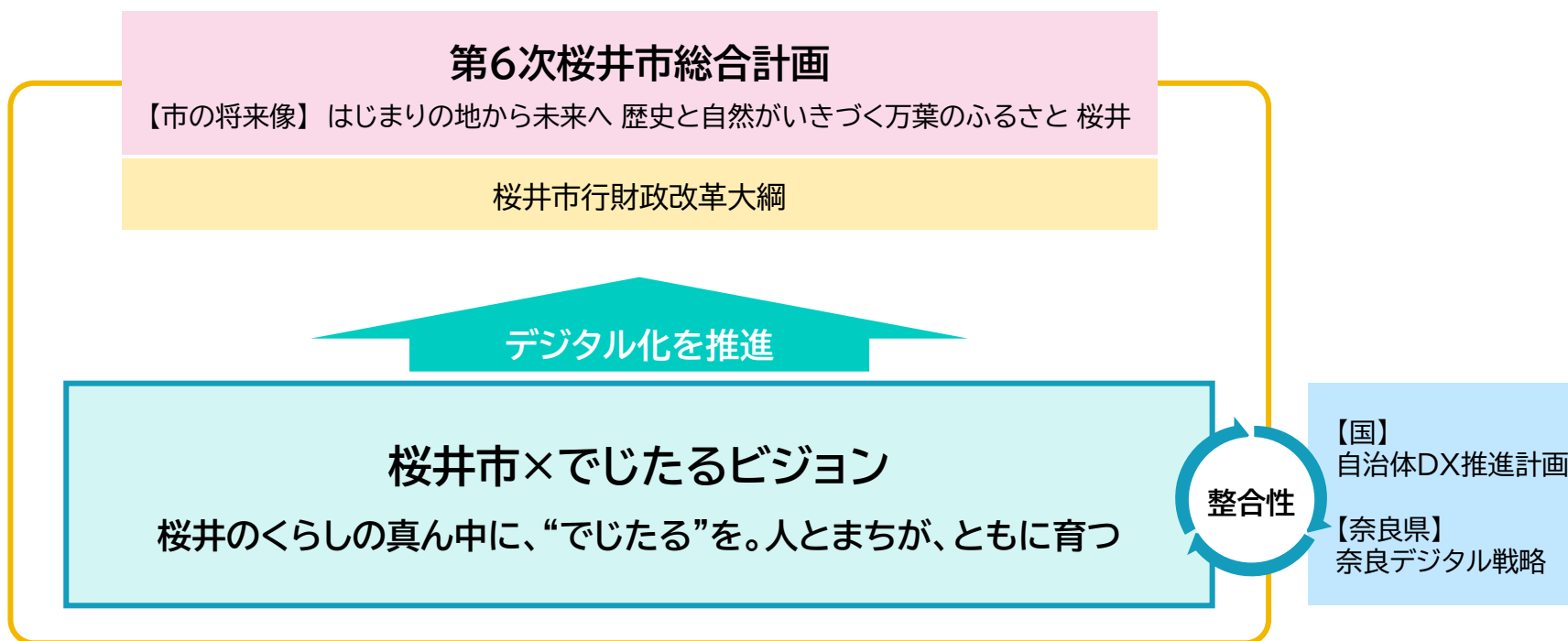


付録

本ビジョンは、桜井市の行政運営における最上位計画である「第6次桜井市総合計画」を、デジタルの視点から実現するための個別計画として位置づけます。国が示す「自治体DX推進計画」、県が示す「奈良デジタル戦略」における計画や方針と整合性を図り、地方公共団体としての責務を果たすとともに、市のDXを着実に推進するための指針とします。

■他の個別計画等との関係

桜井市の定める「桜井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」「桜井市情報セキュリティポリシー」など、既存の関連計画に対し、DXの視点から必要な改定や統合を行い、デジタル施策の一貫性を確保するための指針となります。



令和8年4月1日から令和13年3月31日まで

計画期間中においても、技術革新等への柔軟対応を可能とするよう、必要に応じて記載内容の見直しを行うものとします。

1. 計画期間を5年間とする理由

本ビジョンは、DX推進に要する時間軸と、市の計画・予算編成サイクルとの整合を図る観点から、5年間を基本単位とします。

国のDX関連スケジュールや上位計画との同期を確保しつつ、段階的に実行・検証・見直しを行うための期間設定です。

DXは、ツール導入にとどまらず、組織文化の転換、職員の能力向上、市民への浸透までを含む継続的な変革です。

特に、データ駆動型行政の定着や全庁的なデジタル活用力の醸成には、少なくとも5年程度の計画的・段階的な取組が必要となります。

2. 市の財政計画・総合計画との整合性

予算措置や次期総合計画策定のサイクルと整合性を図り、安定的な財源確保と効率的な資源の活用を可能にすることで、戦略的な投資を継続的に実施します。

3. 振り返りの実施

デジタル技術の進化速度は極めて速く、また、国の制度や方針も頻繁に更新される特性があります。

そのため、本計画は5年間の実行フェーズを設ける一方で、計画の柔軟性と実効性を確保するため、以下の対応を実施します。

毎年度の進捗評価

施策の進捗等は行財政改革アクションプランとして管理していきます。

4. 計画の見直し

国内外の最新技術動向や市民ニーズの変化、国による方針の変化を鑑み、施策や優先順位の入れ替え、計画の一部改訂を行います。

これにより、最新かつ最適なDX戦略を維持し、時代の変化に対応します。

AI(エーアイ、人工知能)

人間のように考えたり、学んだりするコンピューターの技術です。膨大なデータから法則を見つけ出し、私たちが次に何を求めているかを予測するなど、様々な作業を助けてくれます。くらしや仕事をもっと便利にするための技術です。

BPR(ビーピーアール、ビジネスプロセス・リエンジニアリング)

仕事のやり方や流れをゼロから見直し、根本的に新しく作り直すことです。これまでの「当たり前」とらわれず、効率や市民サービスを大幅に良くするために、業務の無駄をなくして最適なカタチに変えます。

DX(ディーエックス、デジタルトランスフォーメーション)

デジタル技術を使って、私たちのくらしや仕事をより良いカタチに変えることです。単にパソコンを使うだけでなく、データなどを活用し、便利で豊かな社会を築くための取組です。

EBPM(イービーピーエム、エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング)

政策の企画を経験や勘に頼るのではなく、政策目的を明確化したうえで、合理的根拠(エビデンス)に基づくものとするものです。

NFT(エヌエフティー、非代替性トークン)

デジタルデータに「世界に一つしかない本物である」という証明書をつける技術です。コピーが簡単な画像や音楽などでも、所有者を明確にし、価値のあるデジタル資産として扱うことができます。

RPA(アールピーエー、ロボティック・プロセス・オートメーション)

パソコンで行う決まった事務作業を、ソフトウェアのロボットが自動で代わりに行ってくれる技術です。単純な繰り返し作業やデータ入力を正確かつ速く処理し、職員の負担を減らします。

行かない窓口

市役所へ行かなくても、スマートフォンやパソコンからオンラインで手続きを済ませられるサービスのことです。住民票や証明書の発行申請などを自宅などから行えるようにし、市民のみなさんの「時間と手間」を省く取組です。

オンライン手続き

市役所などの窓口に行かなくても、自宅のパソコンやスマートフォンからインターネットを通じて行う申請や届出のことです。24時間いつでも、どこからでも手続きができるようになり、みなさんの時間と移動の手間を減らすことができます。

書かない窓口・待たない窓口

「書かない窓口」と「待たない窓口」は、市役所の窓口で市民の負担を減らすための、二つの大きな改善の取組です。
書かない窓口とは、申請書に氏名や住所などを手書きで何度も記入する手間をなくすサービスです。職員が聞き取りを行い、タブレットなどに必要な情報を入力して書類を作成するので、市民のみなさんは内容を確認して署名をするだけで手続きが完了します。
待たない窓口とは、窓口での待ち時間をできるだけ短くするための仕組みです。事前にオンラインで来庁時間を予約したり、必要な情報を入力しておいたりすることで、窓口での手続きをスムーズにし、待つストレスを減らすことを目指します。

情報セキュリティポリシー

市役所が持つ大切な情報を守るための、基本的な考え方や具体的なルールをまとめたものです。市民の個人情報などが漏れたり、改ざんされたりしないよう、職員が守るべき行動指針を定めています。

生成AI

学習した大量のデータをもとに、人間のように新しい文章や画像、音楽などを自動で作り出す人工知能(AI)の技術です。私たちの創造的な作業を助け、仕事の効率を大幅に高めることができる新しい道具です。

データ駆動型行政

経験や勘だけでなく、集めた様々なデータをしっかりと分析し、その結果にもとづいて政策やサービスを定める行政の進め方です。客観的な根拠で効率的・効果的な行政運営を目指し、市民のみなさんにとってより良いサービスを生み出します。

デジタルデバイド(デジタル格差)

インターネットやスマートフォンなどのデジタル技術を「使える人」と「使えない人」の間で生じる、情報量や生活の利便性の差のことです。この格差が、収入や教育、行政サービス利用の機会の差につながる社会的な課題です。

デジタルリテラシー

インターネットやスマートフォンなどのデジタル技術を正しく理解し、安全かつ効果的に使いこなすための知識や能力のことです。フェイクニュースを見抜いたり、プライバシーを守ったりしながら、デジタル社会の恩恵を受けるために必要な力です。

奈良スーパーアプリ

奈良県と市町村が共同で提供する、行政手続きや情報収集がスマートフォン一つで完結するウェブアプリです。電子申請や施設の予約、一人ひとりに合わせた情報提供など、市民のみなさんの利便性を大きく向上させるための仕組みです。

フロントヤード

市役所の窓口や電話、ウェブサイトなど、市民のみなさんが行政と直接かかわる全ての接点を指します。この部分をデジタル技術などで改善し、「書かない」「待たない」「行かない」窓口サービスを実現するための改革が進められています。

プッシュ型サービス

行政が市民からの申請や問い合わせを待たずに、必要な情報を能動的に(プッシュ=押すように)お届けするサービスです。大切な情報や新しい情報が、一人ひとりの状況に合わせて自動的に手元に届きます。

マイナンバーカード

みなさんの顔写真とマイナンバーが記載されたICチップ入りのカードです。これ1枚で本人確認ができ、健康保険証としての利用や、行政手続きのオンライン申請を安全に行うことができます。

リスキリング

デジタル化などの社会の変化に対応するため、今の仕事とは異なる新しい分野の知識や技術を学び直すことです。将来、仕事のやり方が大きく変わっても活躍し続けるために、必要なスキルを身につける取組です。

レコメンド機能

一人ひとりの興味、関心、状況などに応じて、最適と思われる情報やサービスを自動的にお勧めする仕組みです。

ワンストップ(サービス)

複数の部署や窓口を回らなくても、一つの場所や一回の申請で必要な全ての手続きを終わらせられることです。例えば、引越しの際も、一つの窓口で関連する全ての届出が完結するようにし、市民のみなさんの手間を省きます。

DXは「自分ごと」、桜井の未来を共に創る。

「桜井市×でじたるビジョン」の実現に向けて、みなさんがDX(デジタルトランスフォーメーション)を「自分ごと」として、主体的に関わっていくことが重要です。

職員のみなさんには、デジタル技術を日々の業務改善や市民サービスの向上に活かすことで、より創造的で効率的な行政の未来を自ら切り拓く意識を持っていただきたい。中でも、こどもたちの学びを支え、教職員の負担を軽減する「校務DX」は、教育の質の向上と効率的な学校運営を実現し、未来の桜井市を担う人材を育む上で極めて重要な取組です。

そして市民のみなさんには、“でじたる”がもたらす利便性を享受しつつ、まちづくりへの積極的な参画を通じて、安心安全で豊かな暮らしを共に創り上げていく「主役」としての意識を育てていただきたい、との期待がこのビジョンに込められています。

桜井市発展への確かな道筋を、私たち全員で強い意志を持って創り上げていきましょう！



陳内 裕樹 氏(令和6年4月から桜井市未来共創フェローに就任)

内閣府クールジャパンプロデューサー

東京都立大学客員教授

東北芸術工科大学客員教授

奈良県デジタル戦略アドバイザー

その他、80以上の自治体・首長の政策顧問やアドバイザーを務める



桜井市×でじたるビジョン1.0(2026-2030)

発行年月: 令和8年4月

作 成: 桜井市総務部 イノベーション推進室

このビジョンの概要(音声・字幕)はこちら
※動画は予告なく変更する場合があります

